荒木山通信

2024年８月
第21号
北房文化遺産保存会
（文責）畦田正博

文化遺産ボランティア養成講座

荒木山西塚古墳発掘調査報告会

掘った！ 出た・出なかった！ これが分かった！

七月二八日（日）、北房文化センターで第３回北房文化遺産ガイド養成講座「荒木山西塚古墳発掘調査報告会」を開催しました。講師は、調査員として中核となって発掘調査を行った、真庭市教育委員会生涯学習課の新谷俊典課長補佐。「荒木山東塚・西塚の調査について」と題して、調査に至るまでから、調査の様子、出土遺物などから今現在分かっていることなど、プレゼンを用いて分かりやすく話されました。市内外からの八〇数名の参加者（会員や一般）は熱心に聞き入っていました。報告の概要は以下の通りです。

1. **荒木山古墳とは、**
真庭市上水田南部にある二基の古墳の通称。真庭市重要文化財（史跡）

2. **これまでの東塚・西塚の評価**
東塚は、前方部がバチ形。箸墓古墳等と同じ頃に築造され北房でも（真庭市でも）最古の古墳。西塚は、東塚に次いで築かれた四世紀代の首長墳の可能性。

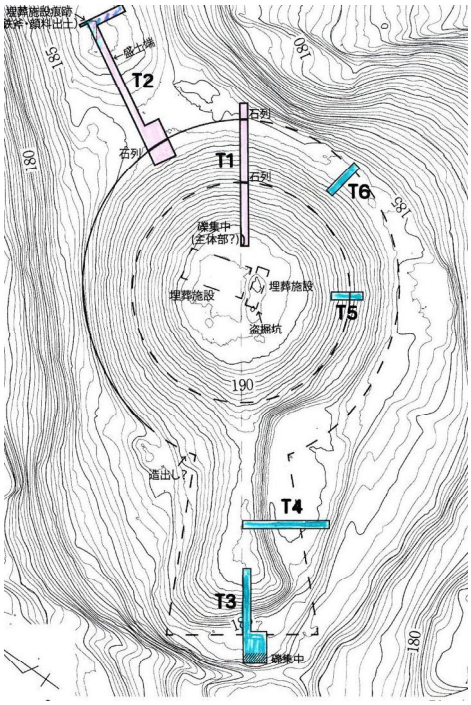
3. **東塚・西塚の測量・探査調査**
平成二八年、荒木山の古墳を顕彰する会が発足
平成二九年、墳丘の測量を市に要望。
平成三〇～令和二年度、公民館講座で東塚・西塚の**非破壊調査**。
（探査結果）
東塚：後方部墳頂に**木棺直葬か粘土槨の埋葬施設**の可能性等
西塚：後円部墳頂に深さの異なる**複数の竪穴式石室**が存在する可能性がある。

写真や図で説明の新谷補佐

4. **西塚発掘までの道のり**
令和二年、顕彰する会、市長との意見交換会で発掘調査を要望。
令和三年、北房振興計画に発掘調査を位置づける。**市民が参画する形での発掘調査**が具体化する。
令和四年、名称変更した北房文化遺産保存会と市・同志社大学で**西の明日香村コンソーシアム**を結成。発掘調査サポーターの募集とワーキンググループの設立。民学官連携の発掘調査体制ができる。

5. **西塚の発掘調査**
〔調査目的〕
① 墳丘の規模や構造、葺石、埴輪など外表施設の有無の確認
② 東塚と西塚の間の高まりの性格の確認
〔**一次調査**：令和四年度〕
後円部等に二カ所のトレンチ（Ｔ１・Ｔ２）。
実働二九日・延べ一〇六三人（市民六六三人）参加
〔**二次調査**：令和五年度〕
後円部・前方部等に五カ所のトレンチ（Ｔ３～Ｔ６とＴ２の東部分）
実働三四日・延べ八八七人（市民七一七人）参加

後円部
・墳裾（墳丘端）を確認。
・墳丘下部は**地山**の削り出し。上部は**盛土**。
・外表施設として**石列**を二列確認。東側には無い。



西塚古墳平面測量図・トレンチ位置図

・墳頂部の浅い箇所で**石灰岩の礫**集中を検出。

前方部

・後世の改変で墳裾が削平。
・古墳に伴うであろう石灰岩礫や土器片が多数出土。
・前方部を削平した平坦面には墳丘と関連するような痕跡が残っていない。
・盛土造成が少なく、地山をかなり利用。

東塚と西塚の間の高まり

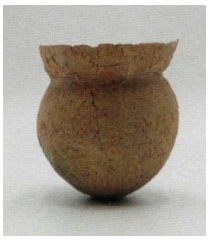
・地山を掘削して用いた盛土と考えられる土層を確認。盛土の中から**板状鉄斧**が出土。→人工的な高まりであることが判明。
・五年度の調査で墓壙（埋葬施設を築くために掘り込んだ穴）の痕跡を確認。
・墓壙底面付近から**赤色顔料**が出土。→東塚と西塚の間に**墳墓が存在**する。

トレンチ2から出土の板状鉄斧

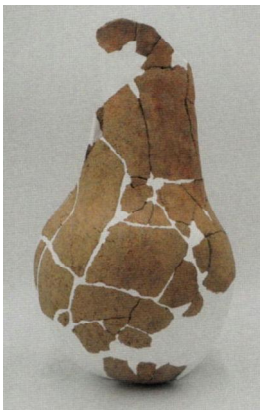
出土遺物

トレンチ２から出土した赤色顔料

・出土遺物の大半は土器片。
・全体の形が復元されるものは少ない。完形に近いのは二点。
小型丸底壺の時期は、古墳時代前期後葉（四世紀中頃～後葉）
長頸の壺形土器は、県内でも類例の見られないものである。
・明確な**円筒埴輪は皆無**。



トレンチ2から出土の小型丸底壺



トレンチ2から出土の長頸壺

・弥生土器が一定量出土。荒木山が古墳築造以前にも生活空間として利用されていた。

6. まとめ

・西塚古墳が全長六五m、後円部高さ五・八m、二段築成以上の前方後円墳であること。外表施設として、墳丘裾部や斜面に石列を設けた古墳。
・円筒埴輪は用いられず、壺型土器などが墳丘上に建てられていただろう。
・四世紀中頃から後葉。
・新発見の墳墓は、古墳時代前期の古墳と考えられる。
・西塚の主は、盟主的な立場というより在地的な性格が強いのではないか。

等々

古墳や古代史に熱意のある参加者は、プレゼンを用いての分かりやすい報告に興味深く聞き入っていました。

「新しく見つかった古墳にはどういう人が埋葬されているのか。」「前方後方墳と前方後円墳が近接して造られているのは。」「北側だけで南側に石列などがないのは。」と、報告後も熱心な質疑応答となりました。

二階ロビー（受付横）では出土遺物の展示もあり、熱心に見入っている参加者の姿も。また、参加者にはガイド養成テキストだけでなく、第一次発掘概要報告書のプレゼントもありました。

ロビーでの出土遺物展示も

【参加者の感想（アンケートから）】

＝一般参加者＝

○新谷さんのお話、スライド、知識の無い私にもわかりやすかった。発掘作業に携わらせてもらたのですごく身近に感じることができた。
○分かりやすい説明でよかった。当時の人の暮らし、社会がどうだったのかなど、もっと知りたくなった。
○古墳発掘に参加させてもらった。その時感じたことを学術的、知的裏付けを今日知ることができて北房のすごさを感じている。
○発掘調査の成果をよく理解することができた。今後参加できるようなイベントがあればぜひ参加したい。

＝参加の会員＝

○発掘調査に参加させてもらったことを思い出すと同時に、点が線となり全体として客観的に考えることができた。発掘の仕方（初歩）から大学や地域・市役所・いろいろな方々に教えてもらい楽しい時間を共有できた。
○自分の参加した発掘調査の成果を聞くことができて楽しかった。今後も荒木山古の研究が進むよう調査が続いてほしい。

「萬葉集」から見た古代（二）
―文字で書く―

三輪　能章

前回の「④春**楊**　葛山發**雲**　立座　妹**念**」の読みは「はるやなぎ　かつらぎやま**に**　たつくも**に**　たちて**もいても**　いも**をしぞ**おも**ふ**」2453番（柿本人麻呂）

これは、萬葉集の表記法で略体歌と言われる歌です。付属語が全く無く、五七五七七が全て二文字で書かれています。音読みも無く、全て和語（やまと言葉）です。そして四句目以外は、「やん、さん・うん・ねん」と「ん」の漢文に見られる「韻」を踏んでいます。

この歌の訳は、「青々とした楊（柳）の新芽を髪に飾った、好きな女性を葛城山にかかる雲から想い、立っても座ってもいられなくなった。すぐに会いたいなあ。」です。現代でも同じようなことがあるのではないでしょうか？

では、文字を持っていなかった日本人が、文字を使うようになったのはいつからなのでしょうか。使うということは書いて伝えることです。

中国から朝鮮半島、そして日本へと漢字が伝わり、漢字の意味に関係なくその「読み」から言葉に対応させたのが萬葉集に使われている「萬葉仮名」です。「萬葉仮名」といっても萬葉集だけに使われているのではありません。「古事記」「日本書紀」「推古朝遺文」などの七世紀から八世紀の日本語表記文に使われています。

「あ」から「を」までの萬葉仮名は諸説ありますが、二千数百の漢字を使っています。日本語を表記するため漢字の音や字義、字訓、字形を借用しています。

そして「萬葉仮名」だけの表記文、「漢字と万葉仮名」の表記文があります。

さて、漢字の起源は中国です。今から約三千五百年前の殷王朝前期の遺跡から、漢字の原形が発掘されています。

甲骨文字：紀元前１０００年頃にかけて使われた漢字の最古の書体。亀甲や獣骨に彫りつけられている。

そして殷王朝後期の遺跡・殷墟から、多くの甲骨文字や金石文が出土していますが、周末には、群雄割拠によって地域ごとに文字は独自の発達をしました。

群雄割拠を制した秦の始皇帝は、それまでの各国の篆書の文字を統一し「小篆」を公式の書体としました。それは次の漢の公文書に受け継がれますが、一般の文字では、隷書から草書と楷書が、楷書から行書が生まれました。（諸説あります。）

次の隋唐代は、科挙制度により仏教の経典や儒書の読解、漢詩作成が必須科目となり厳しい官吏登用制度でした。このことは、遣唐使達に多くの影響を与え、その後の日本のあらゆる方面に現れてきます。

さて、日本で文字がみられるのは、弥生時代中期後半の遺跡から、「貸泉」が出土しています。この「貸泉」は弥生時代編年の貴重な資料です。前漢（紀元前二〇六年～紀元八年）と後漢（紀元二五年～二二〇年）の間、わずか一五年存在した「新」という国が鋳造した銅貨で、「貸泉」の文字が鋳造されています。

「貸泉」

この弥生中期から後期、倭の奴国が後漢の光武帝から西暦五七年に、「漢委奴国王」と彫り込まれた印綬を授かっています。そして卑弥呼が二三九年に魏から金印（「親魏倭国王」）と銅鏡一〇〇枚を下賜されています。

金印「漢委奴国王」

もし、文字が「ことば」を伝える手段と認識していたら、奴国王と卑弥呼は権威の象徴として印を貰ったことを、渡来人に記録させ誇示していたでしょう。この記録が日本側に無いことが残念です。

国内で書かれたと思われる三重県大城遺跡で出土した「奉」または「年」と刻書された高坏の破片は二世紀末頃とされています。その後四世紀初頭までの出土品に、刻書・墨書された文字が見つかっています。

朝鮮半島の百済・新羅との交流の中で弥生中期からある程度の漢字文化も入っていたと言われています。しかし、当時の日本人にとっては特別に必要な「モノ」ではなかったと思われます。記号かデザイン程度の認識だったようです。

その後、三世紀後半の古墳時代に入るとヤマト王権、そして吉備国・出雲国などの有力首長は、新しい大陸の知識・技術・文化を取り入れるため積極的に朝鮮半島からの知識人や渡来人をその支配下に置きました。

その最大の勢力はヤマト王権下の蘇我氏でした。彼らは古墳築造、祭祀、金属鋳造、生活文化など、あらゆる面で他の首長を凌駕し、上下関係を構築しました。この上下関係が大和朝廷政権へと繋がったのです。

これらの集団の中に、後の「史部」という文書に関わる人達がいたことを疑う余地はありません。

それは古墳時代の五世紀後期に、「**日本のことば**」を、**日本で初めて**、漢字を言語記号として使って書いた（象嵌です）刀剣が出土したことで分かります。（その象嵌文は次号で。）

（次回に続く）

篆書
隷書
草書
行書
楷書

〔漢字の書体〕

御領古墳群 ②

倉敷市
山﨑 弘大（中三）

3 張田古墳群

張田古墳群は、大東古墳群の西側斜面に位置する、後期の古墳群です。大東古墳群と同じく、近年まで存在が確認されていませんでした。現在は、三基の横穴式石室墳と一基の古墳の可能性がある石材が確認されています。

金光教芸備教会の北西、池から山沿いを上った墓地にあったのが消滅一号墳です。昭和初期の墓地造成で消滅し、現在は石材が残るのみです。剣や土器が出土したと伝わっています。

消滅一号墳から道なりに上ると左手斜面に石材が見えます。これが番外一号墳です。石室材らしきが集積されていますが、詳細は不明です。

【消滅１号墳」

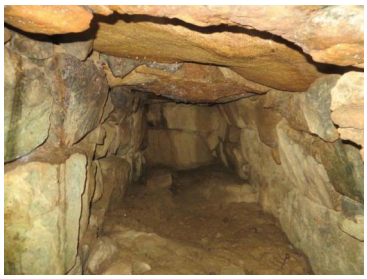
【番外１号墳】

番外一号墳の北西の墓地には二基の古墳があります。張田一号墳と二号墳です。

南側の二号墳は墓地の脇に開口した小型の横穴式石室です。石室長は公称七ｍですが前部は消失しており、幅も一ｍ強しかありません。現在、雑木が繁茂し、近寄りづらくなっています。

二号墳の北西一〇ｍに位置するのが一号墳です。少し分かりづらいのですが、墓地裏の小社への参道脇に墳丘が見られます。長五・五ｍ幅一ｍ強の石室が残っていますが、羨道部が埋没しています。しかし、天井石の隙間から入室が可能です。

張田古墳群は、大東大仙山古墳を訪問する際、訪れやすい位置にあります。一号墳だけでも見学されてみてはいかがでしょうか。



【張田１号墳】

最後まで読んでいただきありがとうございました。前回と今回で紹介した大東・張田の古墳はいかがだったでしょうか。私の記事を読んで御領古墳群に興味を持たれた方は、ぜひ現地を訪問してみて下さい。言葉では伝えきれない魅力が詰まっています。次回は、奈良原古墳群と上御領中組古墳群を書こうと考えています。今後ともよろしくお願いします。

〔参考文献〕
○御領発 古代ロマン 遺跡・古墳・砂留
○探索！御領の古代ロマン①
大東古墳群 ～古墳時代の夜明け～
○探索！御領の古代ロマン②
弥生の首長墓群
（御領の古代ロマンを蘇らせる会）
○広島県遺跡地図
（広島県教育委員会）

文化遺産保存会の主な活動（4月～）

4月 ○荒木山通信の発行（第20号）
5月 ○西の明日香村づくり活動計画策定に係るアンケート（第一回）実施と取りまとめ
○西の明日香村コンソーシアム（第一回）
○西の明日香村検討委員会
○西の明日香村づくり活動計画策定に係るアンケート（第二回）実施と取りまとめ
7月 ○コンソーシアム（第二回）
○第3回北房文化遺産ガイド養成講座「荒木山西塚古墳発掘調査報告会」
8月 ○荒木山通信の発行（第21号）

平安王朝文学アラカルト（一）

◎ 平安の幕開け　古今和歌集

◎ 源氏物語

◎ 恋と歌に生きた平安の美女

戸村　彰孝

日本文学史の中で最も光彩を放っているのは、今から千年の昔、紫式部、清少納言、和泉式部、右大将道綱の母など女流文人たちが活躍した平安朝の世であろう。

天皇を頂点に貴族社会を舞台とした男女の人間模様ではあるが、時代を越え、階層を超えた普遍的な芸術性を持つ、現代人の心に強く訴える和歌であり随筆であり日記であり、物語であるが故に千年の歴史を超えて私達の強い関心を引くのであろうか。

◎　平安の幕開け　古今和和歌集

今流に言えば、十世紀初頭、古今和歌集の紀貫之の仮名序は、その開幕を告げるファンファーレのように聞こえる。

「和歌は人の心を種として、万の言の葉とぞなれりける。・・・力をも入れずして天地を動かし、目に見えぬ鬼神をもあはれと思はせ、男女のなかをもやはらげ、猛き武士の心をもなぐさむるは、歌なり。」と、古今集に採られた代表的歌人の評を述べている。

○ 柿本人麿なむ、歌の聖なりける。

○ 山の辺の赤人といふ人ありけり。歌に、あやしく妙なりけり。人丸は赤人が上に立たむ事かたく、赤人は人麿が下に立たむ事かたくなむありけり。

その他

○ 僧正遍照・・・絵にかける女を見て、いたづらに心を動かすがごとし。

○ 在原業平はその心あまりて言葉たらず。しぼめる花の、色なくてにほひ残れるがごとし、などと批評している。

○ 六歌仙の一人で絶世の美人として多くの伝説の主・小野小町について、第十九代允恭帝の妃である衣通姫の流れであるとし、「あはれなるやうにもて強からず。よき女の悩めるとこあるに似たり。強からぬは、女の歌なればなるべし。」と述べて巻第十二の恋歌を記した。

○ 思ひつゝぬればや人の見えつらん　夢と知りせばさめざらましを

○ 色みえでうつろふものは世の中の人の心の花にぞありける

巻二十　神遊びのうたの中には九世紀の吉備（備前・備中・備後・美作の四国に分割）の国歌が二首ある。

○ まがねふく吉備の中山帯にせる　細谷川の音のさやけさ

この歌は仁明天皇の天長十年（八三三）の大嘗会の時に詠まれた主基のほまれをうけた備中の国のうたである。

○ 美作や久米の佐良山さらさらに　わが名は立てじ万代までに

この歌は清和天皇（八六九）の大嘗会の時主基の美作の国を詠まれた。これら二首の国歌は九世紀の朝廷と吉備の深いつながりを示している。

パリのオリンピックで二十回も演奏された日本の国歌「君が代」の元歌は、古今和歌集第七　賀歌の冒頭にある。

○ 題しらず　読人しらず

わが君は千世にやちよにさざれ石の　巌となりて苔のむすまで

子の「この世をば」が話題となった。こうした定評ある文壇の作家の外に、昨秋から大河ドラマ便乗組とも云える作家たちの解説本が店頭に並び、百花繚乱の趣がある。

翻って、太平洋戦争下、米英と戦っていた国民学校の初等科国史では源氏物語をどうとりあげていただろうか。昭和十八年から四・五年生で学んでいたことになっているから二十年に五年生だった私は当然学んでいたことになる。当時の「国史」を呼びさまそう。

◎ 平安朝文化の華はなんと云っても世界で評価されている源氏物語であろう。

今年の大河ドラマ「光の君へ」は、その作者、紫式部と幼友達？藤原道長との恋物語である。戦後（昭和二十年の敗戦）は、戦時中の「禁断の掟」が解かれたのを機に、源氏物語の現代語訳が進んだ。谷崎潤一郎・与謝野晶子・円地文子・田辺聖子・瀬戸内寂聴などで、小説としては永井路

○「遣唐使がやめられてから、人々は、今までより、もっと日本人の精神にしっくり合うものを、作ろうとするようになりました。かな文字がひろまり、和歌や物語などが発達したのは、みなこうした心や努力の結果であります。その中には、紫式部の作った源氏物語の

【復刻版「初等科國史」】

鳳凰堂

刀伊が攻め寄せたのは、都の人の心がゆるみ、地方の政治も振るわない時のことでしたが、しかも、とくこれを退けることができたのは、筑紫の武士がふるいたったからです。

頼通の生活も、道長同様はなやかなものでした。かれもまた、宇治に平等院を建てましたが、その部分の鳳凰堂が今に残って、藤原氏の栄華をしのばせています。なだらかな屋根の勾配、すらりとのびた左右の翼廊、なるほど、鳳凰が大空を飛んでいるような、美しい建物です。御堂の中にはいると、本尊を始め、扉の絵や欄間の彫刻など、何一つとして、やさしく美しい感じを与えないものはありません。じっと見つめていると、藤原氏の栄華よりも、これを作った人々のたくみなわざに、おどろかされます。そうして、どうしてこのころ、こういう一つばなものが作れるようになったかを、考えさせられます。

紫式部

遣唐使がやめもっと日本人のとするようになり歌や物語などが力の結果であり源氏物語のような絵や彫刻や建物ものになりました。ぐれた仏像その美しい博物館ドから伝わったかわったようになりました。

はなやかなものを残して

ら伝わった習わしも、このころまでに、生まれかわったように、日本らしい美しさを見せるようになりました。」

以上の抜き書きが“初等國史〟の第四、京都と地方という章の鳳凰堂という項である。挿絵の鳳凰堂と紫式部は教科書からの複写である。

源平の合戦や蒙古来襲と神風、楠正成・正行桜井の別れ等今も鮮やかな印象にあるが、源氏物語のことは少しも記憶にない。戦時教育の故だろうか？

敗戦と共に国史の教科書は墨でぬられ、教科としても戦後数年の間姿を消した。復活したGHQ検閲の日本史での源氏物語は、残念ながら私の学習記録にはない。

※　実際の史実では、源氏のモデル道長の人生〝最良の日〟と云われるのは、寛仁二年（一〇一八）十月十六日である。

長女の彰子をはじめ三人の娘を天皇の後宮に送り史上初の三后を実現した祝宴の日である。この宴で道長のうたった歌が右大臣藤原実資の小右記に残されて今日に伝えられた。

○ 此の世をば我が世とぞ
思ふ　望月の欠けたること
もなしと思へば

本人の御堂関白記には歌をよんだことは記されているが歌そのものはない。また、側近の藤原行成の権記にもその記録はない。

○ 紫式部との関係でみると、源氏物語の完成は長和二年（一〇一三）、死亡は四十二歳で長和三年、または寛仁三年（一〇一九）四十七歳といわれており彼女が生前に〝道長最良の日〟に遭遇した可能性は少ない。

道長は五十四歳で寛仁三年（一〇一九）三月出家、万寿四年（一〇二七）六十二歳でその生涯を閉じた。

その後、摂関政治も院政にとって代わられ平安藤原氏の栄耀栄華の舞台に幕がおろされる。（次回に続く）

※　次章「恋と歌に生きた平安の美女」は次号に。

俳句

（令和五年度）

古墳掘る

天野　光暉

○ 墳頂は冷たき風を
生むところ

○ 柴掻いて古墳の態の
あからさま

○ トレンチの土は振るひに
年の暮

○ ヘルメット隣と当たる
音冴ゆる

○ 先生も生徒も厚着
古墳掘る

○ トレンチのあちこち
木の根　出て寒し

○ 鋸や鑿木の根を取りぬ
冬の汗

○ 鋏にて鬚根を取りぬ
北の風

○ 手のひらに土師器の欠片
肌寒し

○ 陶片をやさしく洗ふ
そぞろ寒

○ 春寒や地山さがして
バチやガリ

○ 春蘭の根の踏ん張りし
古墳かな

○ 春うらら見たことの無き
須恵破片

○ 春泥に筵を敷きぬ
古墳径

○ 三月や今日の終はりに
辰砂出る

○ もてなしの豚汁出たり
説明会

宮田　敏子

○ うららかや古墳時代へ
タイムスリップ

○ 名残雪文化遺産の
地を祝う

○ 梅匂ふ墳墓の土に
紛るるも

○ 龍太忌や発掘といふ
ボランティア

特別寄稿

台北市の葬儀の変化①

高松市
稲田 道彦

一　はじめに

『死者をどう処遇するか』という課題は、残された生者にとって大きな問題である。人々にとって遺骸は相反する性格をもつ存在である。家族など死者に近い関係の人には懐かしくて、いつまでも近くにいてもらいたい、愛着を感じ、離れがたい存在である。一方、死者と関係の薄い他人にとっては、そのままにしておくと、いずれ腐ってウジがわき、いたたまれないほどの悪臭を放ち、やがてその形をとどめず損壊していく。腐敗の進んだ姿は見るのもおぞましいという感情を引き起こす。死体は忌まわしく、なるべく早く自分の視野の外に遠ざけておきたい存在である。この両義を裡に持った存在を、生者がどう扱うかは、文化として人々の集団の習俗の様式として確立してきた。

死者の処遇は人々の集団によって、歴史的に形作られた習俗として形成してきた。民族や、文化集団などの習俗がそれぞれが考えてきた価値観に基づき、人々に納得を得る形の共通の処理方法を形成してきた。感情や、倫理観や宗教などの思想、社会の価値観や方法によって特徴的な民族文化として、歴史的に人々が構築してきた様式である。また同じ民族集団の中にあっても、地方によって違いのある地域文化や小部族の固有の文化の性格をもち、変化に富む地方文化の性格も有してきた。

私がこれまで見てきた場所のうち、簡素であっけない葬儀をする地域と、複雑で重厚な葬儀をする習俗を形成してきた地域がある。思い浮かぶのは、前者はインドのバナラシで見た葬儀であり、後者はタイのバンコクに住む中国系の人々の葬儀であった。バラナシではガンジス川の河岸のガートという石段で火葬する。ガンジス川は聖なる川と考えられ、近傍から遺体を運んできて、ここで火葬されることを多くの人が望んでいる。火葬の専門職に頼む。木材を集め、火をおこしその中に据えられた遺体が火に包まれ、盛んに炎が上がっている途中で、木材もろとも半焼けの遺体をガンジス川に流してしまう。火が燃えさかっている最中に、御坊が木の棒で頭蓋骨をつつき割る。その時に、霊魂は煙に乗って昇天する。霊魂が離れると、もはや遺骸には重きを置かない。彼らがその行為を説明するのは、輪廻により永遠に生と死を繰り返す霊魂の考え方である。霊魂が肉体を離れてしまうと、それまで宿っていた肉体には愛着を感じなくなり、処分されてしまう。霊魂が永遠に輪廻を繰り返しているために墓は作らない。生命が輪廻の車輪の回転の中で、永遠の生命を繰り返すことは苦しみの多い生を繰り返すこととらえている。他方で、輪廻から逃れる方法として、サドゥーとして修行の人生を過ごす生き方がある。修行の最終の段階で、各地を放浪し他の人の喜捨だけに頼る生活をした行者は解脱（サンサーラ）という悟りを得る。修行が行き着いた先にある死によって、彼は輪廻の循環から離れることができる。サドゥーには簡素な墓が作られていた。私はネパールのカトマンズのパシュパティナート寺院に付属する丘陵の斜面でヒンズー教徒の墓を見た。サドゥーの墓と教えてもらった。

複雑な儀礼を行う後者の例として、一九九〇年当時、タイのバンコクに住む華僑の末裔の事例である。巨大な寝釈迦像で有名なワット・ポーに付随する塔頭の一つで行われていた中国系の人の葬儀である。バンコクでは多くの人が三〇〇年くらいの前の華南地方からの移民であり、すでに五世、六世と世代を経ている。若い人はタイ語しか喋れないし、タイ人の生活文化の中で生きている。それにもかかわらず、葬儀は私が台湾で見た葬儀と類似した様式であった。葬儀場には漢字で書かれた案内が掲げてあり、一週間以上かけて葬儀する案内が掲げてあった。ファンファーレで頭を地面につけて礼拝する様子は彼らの内面に保持している、死に対する中国文化の強固な一面に触れた。郊外にタイ人とは違う中国式の墓苑を設けていた。どういう場所に移っても、中国人の死者に対する思想や習俗が彼らの一つの確固としたアイデンティになっていることを思った。

【ワット・ポーの涅槃仏】
全長４６ｍ、高さ１５ｍ

中国本土について言うと、中国共産党や中国政府の強力な指導により、葬式の簡素化、火葬の導入、墓地・墓石の簡素化の制度が一律に導入されたため、歴史的に中国人の培ってきた文化は変革した。従来の方法に固執する葬式をした公務員が職を解かれるという報道があったほど、政府によって強力に執行された。それまでの葬式や墓に多大な出費を惜しまない人々の習俗

に対して、経済合理的な立場からの改革であったと言える。私は従来の中国の葬文化は、中国本土以外の、中国に統一される前の香港や台湾において引き継がれていることを見つけた。第二次世界大戦以前に日本語で書かれた報告書にあるとおりの葬儀や墓地制度を台湾や香港で見た時には、自分の記憶が試されているような興奮を感じた。

さて、本稿では台湾に何度か訪れているうちに、あれ程強固で変わらないという印象を私に与えていた、死者に対しての中国人特有の思想が変化したことを観察した。その報告である。ここでは主に一九九二年と二〇〇〇年頃と二〇二三年に台湾で見た事例を中心に述べる。

（香川大学経済学部
名誉教授）

（次回に続く）

※　以下、一章「一九九二年の台北市の殯儀館」、二章「現代の台北市殯儀館」は、次号に。

英賀寺を偲ぶ

大和路はるか

北房盆地の南側の山裾が舌状に張り出した丘に立っている。

盆地を一望するこの丘からは、前面に大小の谷が織りなす連山が北からの寒気を防ぐかのように立ち廻っている。山々は今まさに紅葉に彩られ晩秋のやわらかな陽射しに包まれている。

私はその心地よさに陶酔し、茫然自失の中でやがて赴く黄泉の世界がこのようであって欲しいなどと思っていた。

いやいや、そんな妄想に耽っている場合ではない。私はこの丘に在ったという古代寺院「英賀寺」を体感したいとやって来ていたのだ。

資料によれば、寺院は六九〇年頃（飛鳥時代）三十年の歳月をかけて完成されたという。一町四方（一辺が約一〇九m）の敷地を有し出入り口は南門で、門を潜ると四〇m程前方に中門が見える。中門を潜ると右手に堂々たる五重塔、左手のやや奥まった所に金銅が鎮座し、中門から凡そ四〇m程進むと大型の講堂が建っている。中門から東西に伸びた回廊が東の五重塔、西の金堂を内包して講堂へと繋がっている。南門から東西に伸びた塀が屋敷を囲んでいたのであろう。また、回廊の北側で塀との間には僧坊等幾つかの建物が在ったとされている。

このように、千三百年余の昔、備中北部の山間の盆地に出現した寺院であるが、一体誰が創建し、平安時代までどのようにして護持したのであろうか？思いを巡らすが想像さえも拒否するかのように総てが歴史の闇に眠っている。

堂塔の跡地は現在一面ブドウ棚で覆われ、想像を妨げているかのようだ。

（久松秀雄）

（お知らせ）

谷尻遺跡発掘50周年記念イベント

（予定）

◇出土品里帰り展
一〇月末～一二月上旬
・北房ふるさとセンター

◇記念講演会
一一月二四日(日)午後
・北房文化センター
（講師）高畑知功先生
元古代吉備文化財センター所長
谷尻遺跡発掘担当者

中国縦貫自動車道の建設に伴い、昭和四八年（一九七三）から五〇年（一九七五）にかけて谷尻遺跡の発掘調査が行われました。多数の住居跡、外来系を含む土器等の遺物が出土しています。特に方形の大形住居跡は床面積が約一四〇㎡と、他の住居跡の約五倍の大きさ。その大形住居跡からは巴形銅器も出土しています。古代吉備北西部有数の拠点集落であったことが明らかになっています。

本格的な作業が行われた第二次調査が行われたのが昭和四九年（一九七四）です。この第二次発掘調査から五〇年を記念して真庭市教育委員会・北房振興局・北房文化遺産保存会の共催で計画しています。詳しくは後日案内があります。是非ご覧下さい。

【大形住居跡】
（岡山県報告書より）

【保存会のこれからの活動】

○西の明日香村検討委員会
２回行ったアンケートの結果をまとめています。これを元に保存会としてのビジョンを明らかにし、具体的な計画（中期・年度）を策定します。

○ガイド養成講座
秋には、現地での講習を計画したいと考えています。

○荒木山通信22号の発行
次号の発行は、一二月末です。皆様方からの積極的な投稿をお待ちしています。よろしくお願いします。

Masah1r0.uneda@outlook.jp